



とよろうつうしん

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校
令和5年度
学校通信 第1号 No.1
令和5年6月23日発行



コロナ禍以前の学校教育を求めて



森山 剛

新年度が始まり、ゴールデンウィーク明けからは、コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、様々な生活様式がコロナ禍以前のように戻ってきていることは、皆さんが実感されているところではないでしょうか。学校教育の上でも、同じようにコロナ禍以前の取組に徐々に戻している途上にあるように思います。例えば、マスク着用が個人の判断に委ねられることでは、対面での指導場面で、教員がマスクなしで口形を示したり、表情豊かな働きかけが可能になったりといった効果が上がっています。いずれも、コロナ禍では多くの教員が指導の中でもどかしさを感じていたことであるため、5月以降の教育効果の向上を期待しているところです。学校行事の企画運営でも、感染対策を十分に講じた上で、コロナ禍以前の取組に徐々に近づけてきています。保護者・地域の皆様には、こうした取組にどうぞご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

幼稚部

今年度の幼稚部は、3歳児2名（男児1名、女児1名）の新しいお友だちを迎え、スタートしました。

入学してしばらくは、新しい環境や初めてのことに、ドキドキしていた2人でしたが、少しずつ学校生活に慣れ、今はおままごとあそびや、絵本・手あそびなど、好きなあそびを見つけ、教師と一緒に楽しむ姿が見られるようになりました。

毎朝登校したら、保護者と一緒に、出席シールを貼ったり、連絡帳を出したり、補聴機器の点検を行ったりしています。また、朝の会や給食などの活動は、お友だちの存在を意識しながら、がんばっています。

3歳という、まだまだ小さい体で一生懸命がんばる姿、そしてキラキラ輝く2人のスマイルから、わんぱくパワーをもらっています。

友だちや教師と生活する毎日を、丁寧に、そして笑顔たっぷりに、過ごしていきたいと思えます。



※裏面へ



これまで、本校の地域支援は支援教育部が行っていましたが、今年度は新しい体制になりました。本校の2つの地域支援体制について紹介します。



豊岡聴覚支援センター

今年度から聴覚障害の地域支援は聴覚支援部＝「豊岡聴覚支援センター」が行います。聴覚支援センターは、保健、医療、福祉の専門家と連携して、保護者と共に、聞こえない・聞こえにくいお子さんのよりよい発達を支援するため、昨年度から県下5校に設置されています。「豊岡聴覚支援センター」は、主に但馬と丹波地域の聴覚障害の支援を担います。

【対象】

0歳から18歳の聴覚障害、または、その可能性のある子どもと保護者、関係者

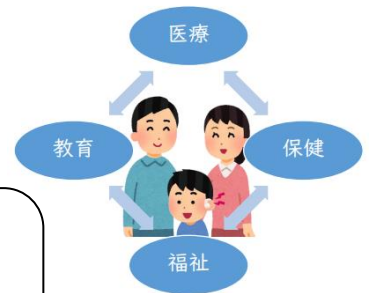
【取組内容】

- 教育相談 乳幼児教育相談
学齢期の教育相談
- 通級指導教室
- 子育て・保護者支援
- 医療・保健・福祉等関係機関との連携
- 各種研修会の実施
- 理解啓発

聴覚支援の詳細については、
右のQRコードからご覧いただけます。



医療と連携しながら
聴力測定や
補聴器の選定・調整を
を行います。



- *保健師対象研修会
- *難聴児担当者連絡会
- *難聴児サマースクール
などを開催します。



発達支援部

今年度から聴覚障害以外の地域支援は発達支援部が行います。主に、校区内の知的障害や発達に関する支援を担います。

教育相談…就学前から高校3年生までの発達に関する相談を受けています。子どものことば（発音の誤り・吃音）、子どもの育ち、就学（知的障害部門）、指導についてなど、保護者や支援者の方々と一緒に考えたり支援したりしています。



通級指導教室…小・中学校の通常学級で学んでいる子どもたちが、自立活動の内容（発音の指導）を学習しています。



高校通級の協力校…高校に出向き、通級担当の先生から発達障害等を対象としたLD、ADHD等通級指導教室に関する相談を受けて一緒に考えたり、関係機関と連携し、情報提供したりしています。



ことば、就学におけてのご相談等、保護者の方や先生方と一緒に考えていきたいと思っていますので、発達支援部までご連絡ください。



